

# ひのほら 議会だより

11

2018.11.1  
No.155



第8回東京ヒルクライム大会  
～HINOHARAステージ大会（10月7日）

## 目 Contents 次

P.2 決算が認定されました

P.5 議案と議決結果

P.6 一般質問

7名 8問

P.10 各委員会報告

P.11 視察研修報告

# 平成29年度 一般会計 7特別会計

**歳入総額 60億1千644万6千円**  
(内7特別会計 22億1千172万6千円)

**歳出総額 57億7千721万9千円**  
(内7特別会計 21億2千707万7千円)

※一般会計決算額の中には、特別会計への繰出金8億4千93万1千円が含まれています。

## 9月14日 本会議において 決算を認定しました

月 日	会 議 名	内 容
9月3日(月)	定例会	一般質問等について
9月6日(木)	総務委員会	陳情審査
9月7日(金)	産業建設委員会	所管事務調査
9月11日(火)	決算特別委員会	決算の認定について
9月14日(金)	定例会	決算・条例・補正予算等について

3ページに掲載  
19件  
村提案案件

### 決算特別委員会報告

平成29年度檜原村一般会計及び7つの特別会計の決算審査にあたりまして、その経過並びに結果を報告いたします。

去る9月3日の本会議において、本委員会に付託された案件は、平成29年度檜原村一般会計及び7つの特別会計歳入歳出決算の認定についての8つの案件です。

付託された案件は、去る9月11日に委員会を開催し、細部及び審査を行いました。この8つの案件につきましては、平成29年度における、村の全ての事務事業執行上の実績報告書であり、大変重要度の高い案件であることを十分理解したうえで、各委員による積極的な質疑が行われ、質問は93件に及びました。村側の詳細な説明と答弁を得ながら慎重に審査を行いました。

審査の結果、8会計の総額は、歳入は、60億1千644万6千円、歳出は、57億7千721万9千円となっていました。

内容につきましては、村の地域特性を活かしたエコツーリズム関連事業や村の基盤整備事業である、ひのはら緑(力)創造事業、高齢者福祉の向上に関する経費、上下水道、バイオマスボイラー設置等の村の環境衛生に関する経費、村の消防事業に関する経費並びに海外派遣事業等・教育環境の充実に関する経費が主なものであり

いずれも、生活環境の改善、福祉の向上、産業の振興等「自主・自立を目指す村」として、村民が、安全で安心して暮らせる、村づくりを実現するために必要な支出となっております。

最後に総括質疑を行った後、採決を行いました。採決は、8つの議案すべてが原案ど

平成30年9月14日

決算特別委員会委員長

浜中 由造

最後に総括質疑を行った後、採決を行いました。採決は、8つの議案すべてが原案ど



条例

補正予算

議案第45号

檜原村税賦課徴収条例の一部を改正する条例

(説明)

生産性向上特別措置法の施行に伴い、中小事業者等が新たに取得した先端設備等について固定資産税を軽減するものです。

議案第48号

平成30年度檜原村一般会計補正予算(第2次)

(説明)

補正額 1億3千309万2千円を増額し、総額を36億9千29万6千円とするものです。

議案第50号

平成30年度檜原村簡易水道特別会計補正予算(第1次)

(説明)

補正額11万6千円を減額し、総額を2億488万4千円とするものです。

議案第53号

平成30年度檜原村介護保険特別会計補正予算(第1次)

(説明)

補正額3千626万9千円を増額し、総額を5億1千726万9千円とするものです。

議案第55号

平成30年度檜原村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1次)

(説明)

補正額386万8千円を増額し、総額を9千86万8千円とするものです。

議員提出議案

議案第51号

平成30年度檜原村東京都民の森管理運営事業特別会計補正予算(第1次)

(説明)

補正額707万6千円を増額し、総額を1億3千107万8千円とするものです。

議案第54号

平成30年度檜原村介護サービス事業特別会計補正予算(第1次)

(説明)

補正額181万6千円を増額し、総額を4千881万6千円とするものです。

臓器移植の環境整備を求める意見書

(説明)

臓器移植の環境整備を求める意見書を国及び関係機関に提出するものです。

議案第49号

平成30年度檜原村国民健康保険特別会計補正予算

事業勘定(第1次)

診療施設勘定(第2次)

(説明)

事業勘定

補正額4千18万8千円を増額し、総額を3億7千918万8千円とするものです。

診療施設勘定

補正額378万4千円を増額し、総額を2億2千63万4千円とするものです。

議案第52号

平成30年度檜原村下水道事業特別会計補正予算(第1次)

(説明)

補正額13万6千円を増額し、総額を4億9千513万6千円とするものです。

議案第47号

檜原村移住・定住促進基金条例

(説明)

村への移住・定住を促進するために、村営住宅の建設等に必要な土地・建物を取得するための新たな基金を設置するものです。



**平成29年度  
檜原村一般会計歳入  
歳出決算の認定に  
対する討論**

**反対討論**

吉川 洋

じゃがいも焼酎製造事業に村長は2億でも3億円でもつぎ込むと言っているが、私の議論は2億、3億つぎ込むのであれば、もっと檜原村の村民のために役立つ事業がいろいろあるのではないかということ。

村長は「直径1センチのじゃがいもでも私は全部買い取る」という発言をしているが、民間事業について行政のトップがその材料を全部買い取るなんてことは特区の精神に違反する。

民間人がこのような事業に手を挙げるのか。最大9千本つくる計画であるが、1本、千円で売っても年間900万円の売り上げである。こういう事業については客観性をもって見なければいけない。

また、高齢者の生きがいにも

なるという意見もあったが、観点をすり替えており、これは違う。いろいろ述べたが、今回、村長のあまりにも強引な政治姿勢は問題があるという立場で私の反対討論を終わる。

**賛成討論**

山口 和彦

原案に賛成の立場から討論いたします。

歳入については、自主財源である村税の歳入全体に占める割合の低下する中、地方交付税、市町村総合交付金などの額を確保しつつ、都の補助金を活用し、歳入の確保に努力されたことを評価します。

歳出については、従来の事業を後退させることなく、村の最大の資源である森林を活用した、ひのはら緑(力)創造事業、村の特殊事情を考慮した高齢者先進安全自動車購入補助、やすらぎの里へのチップポイラー導入等、バランスよく村の特性、住民ニーズを適切に把握して積極的に予算執行したことを評価

**賛成討論**

清水 兵庫

私は、一般質問において、村の考え方や採算について確認をしています。村は、平成15年から特産品であるじゃがいものブランド化によるじゃがいも焼酎製造のため調査・検討を行いました。法的規制により村内製造がかなわず次善の策として、委託製造を行ってきたものです。村の念願であった村内での焼酎製造が、東京都の後押しもあり、特区申請により法的規制がクリアされ、村内製造が可能となりました。村は事業開始時点の原点に立ち返り、豊かな自然環境の中で、純粋な檜原産「メイドイン檜原」の焼酎を造るべく準備を進めています。

決算における歳入は、財源確保の努力の姿勢を評価します。歳出は、移住、定住、教育、

**檜原村移住・定住促進  
基金条例に対する  
討論**

**反対討論**

吉川 洋

これははっきり言ってアリバイ、ポーズをつくった条例ではない。というのは、村には檜原村土地開発基金条例があり、そこに約2億円積んであるので、新たな条例を作らなくてもその条文の改正をすれば済む話である。

今回提案された移住・定住促進基金条例は現在、貸したい、売りたい、買いたい、それから住みたいという人に対する目線がない。

これはあくまでも移住・定住促進基金条例をつくりましたという、耳障りは、ものすごくいい条例提案であるが、基金の5千万円の根拠は、かなりいい

福祉、インフラ整備等の施策を着実に進めており、住民生活の向上に尽力される事を願い賛成討論とします。

**賛成討論**

山崎 源重

檜原村に移住・定住を希望する外部の人は、それなりのアプローチをしています。しかしながら需要と供給のバランスに大きな隔たりがあるのもまた事実であります。

生き馬の目を抜くほどの今の社会情勢の中、チャンスを見逃してしまうケースがあります。この問題に風穴を開ける意味でもやるべきであります。

今までの村の方向性と判断を鑑みたときに、疑わしきことが皆無である以上、この条例によって、なんら危機的要素がなければ、当然、公共の福祉の観点から賛成すべきであります。

## 平成30年第3回定例会で審議された議案と議決結果

議長 森田ちづよ ○=賛成 ×=反対

区分	議案名	議席番号	議員名									議決結果
			1 清水 兵庫	2 吉川 洋	3 山寄 源重	5 浜中 由造	6 中村 賢次	7 峰岸 茂	8 山口 和彦	9 清水 満男		
予算	第37号	平成29年度檜原村一般会計歳入歳出決算の認定について	○	×	○	○	○	○	○	○	○	認定
	第38号	平成29年度檜原村国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	第39号	平成29年度檜原村簡易水道特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	第40号	平成29年度檜原村東京都都民の森管理運営事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	第41号	平成29年度檜原村下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	第42号	平成29年度檜原村介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	第43号	平成29年度檜原村介護サービス事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	第44号	平成29年度檜原村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
条例	第45号	檜原村税賦課徴収条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第46号	檜原村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第47号	檜原村移住・定住促進基金条例	○	×	○	○	○	○	○	○	○	可決
補正予算	第48号	平成30年度檜原村一般会計補正予算（第2次）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第49号	平成30年度檜原村国民健康保険特別会計補正予算（事業勘定第1次、診療施設勘定第2次）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第50号	平成30年度檜原村簡易水道特別会計補正予算（第1次）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第51号	平成30年度檜原村東京都都民の森管理運営事業特別会計補正予算（第1次）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第52号	平成30年度檜原村下水道事業特別会計補正予算（第1次）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第53号	平成30年度檜原村介護保険特別会計補正予算（第1次）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第54号	平成30年度檜原村介護サービス事業特別会計補正予算（第1次）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	第55号	平成30年度檜原村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1次）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
陳情	第1号	臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採択
議員提出	第2号	臓器移植の環境整備を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

## 一般質問

# 登壇7人 村政を問う

9月議会の一般質問は9月3日に行われました。  
内容は、要約して受付順に掲載しています。

清水 兵庫

議員



## 今後のじゃがいも焼酎製造 事業の展開について

多方面にわたる効果が期待  
できる

どう差別化を図るのか。

④すべて「メイドイン檜原」で行うとしているが、その過程における意図と意義をどう考えるか。

⑤当面、村内製造と製造委託を併用する必要があると考えるが、いかがか。

**村長** じゃがいも焼酎製造事業を単体の事業という認識は持っていない。多方面にわたる様々な効果が期待できる事業と考えている。

①報告書で黒字化が見込まれており、検討部会で更に分析し、今年度中に基本計画を策定する。

②すべて檜原産のじゃがいもや水を使い、村の自然環境の中で「メイドイン檜原」で造ることである。

③報告書では、一定の評価を得ているが、更に研究を重ね、焼酎のブランド化を図ればと考えている。

④農業・産業・観光振興、雇用の場の確保が、活性化につなげられ、特産品開発を進めることで6次産業化に繋がるものと考

える。

⑤製造委託との併用も必要と考えている。



中村 賢次

議員



## 檜原村に求められる災害 対策について

住民の安心・安全のため  
万全を期す

**質問** 今年も豪雨による大きな被害が西日本を中心に発生した。現在の気象情報を鑑みると、檜原村でも同様の災害が発生する可能性がある。村では、今後の災害対策をどのように考

**村長** 住民の安心・安全のため

万全を期していく。想定される災害に対して、できうる対応はすでに行っていると考えている。

しかし日本各地で発生している災害は過去にないような大規模なものとなっているので、想定については見直し、対策についても随時見直しが必要と考える。

**質問** 土砂災害警戒区域の区域指定については、その後どうなっているのか東京都と村の考えを聞く。

**総務課長** 東京都から土砂災害特別警戒区域の指定に対する保留解除を今年度中に行いたいと村に申し入れがあり、村の施策対応を早期に制定し、住民に説明し対応する。

**質問** デリケートな問題を含んでおり、様々な補助対策も含め警戒区域の解除を進めていたいただきたいと考えるが。

**総務課長** 住民の方が解除後も安心して檜原村で生活できるように、補助制度も含め、スピード感をもって進めたい。

### 児童虐待防止対策の推進について

村内での児童虐待を絶対に発生させないよう努めていく

**質問** 今年3月、東京都目黒区で両親からの虐待により5歳の幼い命が失われた。その幼児がノートに書き残したコメントが繰り返し報道され、多くの国民が心を痛め、両親に対する激しい憤りを感じたことだと思う。このような痛ましい事件を起こさないために、児童虐待防止対策に向けた村の方針は。

**村長** 檜原村要保護児童対策地域協議会など関係機関が連携し、児童虐待防止に檜原村一丸となって取り組んで参りたい。

**質問** ①檜原村要保護児童対策地域協議会は、どのようなことを協議しているのか。

②過去に檜原村で児童虐待はあったか。

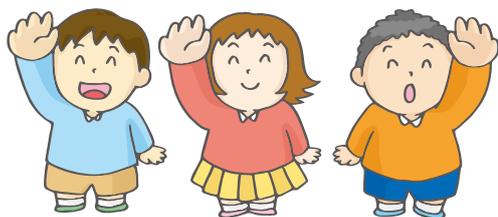
**福祉けんこう課長** ①児童虐待に関する早期発見のための情報収集を行い、対応策などを協議・審議する。

②本村では、この協議会及び担

当課で把握している限り、過去には1件もない。

**質問** 「檜原村では、虐待は見逃さない、虐待は許さない」と村長が強い意志を示すことで、子どもたちが安心して生活できる村になっていくと思うが。

**福祉けんこう課長** 村内での児童虐待を絶対に発生させないよう努めていく。



### 山口 和彦

議員



### 「村内全域を網羅する観光拠点の展開による村内各地域の地域振興を」

村地域振興促進のため、東部、南谷、北谷の3地域をバランスよく発展させていく

後、おもちゃ美術館等を建設する計画を策定している。

②エコツーリズムの考え方を中心に村内各地域における地域振興を図っていく。焼酎工場、おもちゃ美術館等を小沢地区に建設することにより北谷への観光客の流れを作り出し、新たな観光ルートの創出や雇用の場の確保につながるものと考えている。

**質問** 今後の村全体を俯瞰した地域振興に関する村長の決意を伺う。

**村長** 歴史・文化的な資源に恵まれた檜原村をエコツーリズムを進めることによりPRしたい。檜原村独自のエコツーリズムがあつてこそ、村へお客さんと呼べると思いがあふれる。「檜原村のある東京都」としてブランド力を高め、事業展開することにより檜原村の将来があると思っている。

**質問** ①旧北檜原小の村行政における位置づけと今後の取扱予定について。

②小沢地区に観光拠点となりうる焼酎工場、おもちゃ美術館が必要と考えるが、いかがか。

**村長** ①村の普通財産であり、「トイビレッジ構想」により今

清水 満男

議員



## 村におけるごみ処理及び生活排水処理対策の今後について

分別方法の周知により、ごみの分別の徹底を図っていききたい

生じた場合、どのような対応をしていくのか。

**村長** ①奨励金の交付や補助金制度を設け、ごみの減量化・資源化を推進している。ごみの発生の抑制をすることが課題。

②定期的に広報で周知しているが、未接続世帯の解消が課題。

③西秋川衛生組合等と連携を図り、広域処理で取り組む。

**質問** ①資源回収団体の補助金を上げられないか。また、自治会にも資源回収を働きかけたかどうか。

②下水道を接続しない世帯の原因を究明し、今後の対応策を検討したらどうか。

**産業環境課長** ①近隣市町の状況を調査し検討したい。また、自治会長会議にかけ協議したい。

②下水道事業推進委員と連携し対応を考えたい。

**質問** 資源ごみを可燃ごみとして出しているのが見受けられる。広報で周知すべきでは。

**産業環境課長** ごみカレンダーで分別方法を周知しているが、さらに周知を図り、分別の徹底

③災害ごみの処理が各地で問題となった。同様の事態が村で発

生じた場合、どのような対応を

山崎 源重

議員



## 山の業務について技術指導の場がつかれないか

人材育成事業に取り入れられるものがあれば構築につなげていきたい

ようなことなのか

**村長** 林業に携わる方を養成することであり、林業の成長産業化と森林の適切な管理を行う上では必要不可欠なものと認識している。

**質問** 来年度から実施される森林環境譲与税の目的の大きな柱として人材育成、担い手の確保が挙げられている。緊喫な課題として何らかの施策を講じる必要があると思うがどうか。

**産業環境課長** 今後は、東京都と連携を図りながら新たな人材育成事業を構築していかなくてはならないと考えている。

**質問** 檜原村にある既存の団体の意見も聴取しながら、檜原村による独自性が高く、実現性のある人材育成事業を構築してはどうか。

**産業環境課長** 新たな森林環境システムで市町村は、森林組合等との連携体制に取り組みものとされている。その中で人材育成事業に取り入れられるものがあれば構築につなげていきたいと考える。

林業従事者の育成とは、どの

## 議会を傍聴しませんか

傍聴される方は、議会事務局入口で「議会傍聴届」に必要事項を記入していただいた後、「議会傍聴券」をお持ちになり議場へ入場してください。



お問い合わせは議会事務局へ 電話 598-1128

浜中 由造

議員



## 胃がん検診の更なる充実について

がん検診時胃エックス線、胃内視鏡検査、どちらかを選択、実施できるよう検討していきたい

されたが、これからの村の取り組みについて伺う。

**村長** ①集団検診は、検診車で土・日を含め3地区で実施。総合がん検診は檜原診療所と日の出ヶ丘病院と公立阿伎留医療センターで受診でき、いずれも自己負担なしで受診できる。

②がん検診時に胃エックス線、胃内視鏡検査、どちらかを選択実施できるよう、今後検討したい。

**質問** ①胃内視鏡がん検査が村診療所で厳しいのであれば村外の医療機関で、できないか。  
②胃内視鏡検査に村民の負担の少ない公費助成ができないか。  
**福祉けんこう課長** ①日の出ヶ丘病院を含めた近隣の医療機関と調整を図り、検討していきたい。

**質問** ②実施が可能な場合における公費助成については、両検査の差額を助成する等が考えられるが、企画財政課とも調整が必要であるため検討させていただきたい。

峰岸 茂

議員



## 耕作放棄地の再生と鳥獣被害対策について

今年度から鳥獣被害対策補助事業の内容を拡充し対応している

推進委員会に議論・調査・研究を依頼する予定である。

②遊休農地・荒廃農地・獣害対策、効率的な農地活用等について、調査及び審議をしている。  
③本年度より補助内容を拡充し対応している。

**質問** ①サルの追い払いには、地域住民の協力が必要である。地域住民が協力できる手法として、ロケット花火とモンキードッグを提案する。

②サルの捕獲について、村の委託を受けた猟友会が村内のどこにでも、自由にわなを仕掛けて住民が通報できる体制づくりができないか。

**産業環境課長** ①ロケット花火の購入に関しては、検討していく。モンキードッグについては、村で導入が可能かどうか、長野県大町市の活用事例について視察を行うことも視野に入れ、調査研究していく。  
②提案のシステムが可能であるか、効果があるのか、猟友会の意見を踏まえながら調査・研究していきたいと考えている。

**村長** ①檜原村遊休農地等対策について

**質問** ①村の耕作放棄地に対する考え方と今後の施策展開の方向性について  
②推進委員会における検討内容について  
③村の鳥獣被害対策実施状況について

## 議会だよりに「声」をお寄せ下さい

お気軽にご意見・ご要望をお聞かせ下さい。お寄せいただいた意見は全議員に配布し、今後の議会運営の参考にさせていただきます。

お問い合わせは、議会だより編集委員会へ

TEL 598-1128 FAX 598-1009 Email: gikai@vill.hinohara.tokyo.jp

各 委 員 会 報 告

総務委員会報告

総務委員会は、9月6日に開催し、1件の陳情審査と常任委員会による村外先進地視察等の検討を行いました。

○陳情第1号 臓器移植の環境整備を求め  
る意見書の採択を求める陳情書

審査結果 採択

本陳情の趣旨は、「臓器移植を国民にとって安全で身近なものとして定着させるため、早急な対策が必要である」として、臓器移植の環境整備を求める意見書を国に提出していただきたい。」とする内容です。

審査の結果、「内容に関して否定するようなものではなく賛成する」「臓器移植の環境整備を早急にするべき」「法整備も含めて国は対応を進めるべき」など採択としたいとする趣旨の意見が全員からありました。

よって、挙手による採決の結果「採択すべきもの」と決しました。

委員長 山口 和彦

産業建設委員会報告

産業建設委員会は、9月7日に開催し、1件の所管事務調査と常任委員会による村外先進地視察等の検討を行いました。

○中峰平木材天然乾燥施設予定地

契約金額 4千92万8千円  
契約業者 小林建築

檜原村では、森林資源の利活用を目的に、時坂地区の中峰平に木材天然乾燥施設の建設を予定しています。

約5千㎡の敷地のうち、1千480㎡をアスファルト舗装し、109㎡の乾燥施設を3棟建設する予定です。

乾燥施設は、間口12m×奥行9m×高さ6mの大きさで、アスファルト舗装の外周には、木柵を設置予定であるなどの説明がありました。

委員長 峰岸 茂



中峰平木材天然乾燥施設予定地



# 視察研修報告

総務委員会並びに産業建設委員会は、合同で10月10日から12日の3日間、高知県の本山町と梶原町を視察しました。

	本山町	梶原町	檜原村
面積(km <sup>2</sup> )	134.2	236.5	105.4
人口(人)	3,590	3,613	2,244
世帯	1,900	1,817	1,188
高齢比率(%)	44.8	43.5	50.0
平成30年度一般会計決算額(億円)	49.8	61.8	35.4

(平成30年1月1日現在)

## 産業建設委員会

### 日本一のお米「土佐天空の郷」で焼酎づくり

本山町の主な産業は林業と農業で、杉の植林や棚田(水田)での米づくりが盛んに行われています。

今回、私たちが訪問したの

は、町役場と地域活性化を目指し2005年に設立したという「ぼうむ合同会社(ドイツ語で年輪)」です。

この会社は、地元の資源である木材とブランド米「土佐天空の郷」を活かしたビジネス作り、雇用と定住を目指すことを使命として設立されたものです。

檜原村と地形的特性が似ており、森林資源が豊富であることと、町内で焼酎事業を行っていることから、ここで焼酎製造事業と木材加工事業の研修を行いました。

本山町で稲作が始まったのは弥生時代。長い年月をかけ、切り開かれた水田は大切に守られ、今でも9割が棚田で当時の形状が残っているそうです。この棚田で栽培されたお米「土佐天空の郷」は平成22年に行われた「お米日本一コンテスト」で最優秀賞に輝きました。美味しいお米を作るには、昼夜の寒暖差と、ミネラルを多く



含んだ保水力のある水田が必要とされています。この条件が揃った、この地が「土佐天空の郷」を育て、この棚田米をうまく焼酎で広めようと焼酎製造事業を始めたそうです。

本山町で製造されている本格米焼酎「天空の郷」は、味わいを追求しており、月間販売数は約1000本(720ml換算)の少量生産で、製麹やもろみ仕込みを人の手で丁寧に行い、米農家の思いを味わいに込めているとのことでした。「焼酎の製造と販売の秘訣は」との問いに「販売開始から5年目になるが、ま

い。味が整い商品に仕上がるまでには時間がかかる。大切なことは、十分の熟慮と事業計画を立てることが重要である」との回答でした。

檜原村においても、地域活性化対策やじゃがいも焼酎など特産品開発に向けて、取り組みがばならない事業が多くあります。

事業を成功に導くためには「十分の熟慮と事業計画が重要である。」これは本山町で学んだことです。そして、「なぜか成る、なぜかばならぬ何事も」の精神の下で、事業に取り組むことが重要であると感じた本山町での視察でした。

委員長 峰岸 茂



## 総務委員会

### 梶原町の移住・定住化施策及び地域づくり施策について

梶原町は、高知県の西北部、

愛媛県との県境の雄大な四国カルスト高原を有する四国山地の山間地帯に属し四万十川渓谷と急峻な山々に囲まれた町です。

町の面積は236.45km<sup>2</sup>、その内91%が森林で人口3千569人、高齢化率43.9%です。今回は梶原町の移住定住化施策及び地域づくり施策について視察しました。

まず町では、平成22年度に町民に向けて不安と課題を聞くアンケート調査を行いました。その結果、交通手段が不足、雇用の不足など6つの不安が出てきたそうです。

その解消を図るために梶原町総合振興計画を立てました。そして梶原町まち、ひと、しごと創生総合戦略を策定し、梶原町の問題解決と梶原町の良さを高めるために移住・定住化対策について力を入れるようになりました。

平成25年には、地域にある



空き家の資源を有効活用し、移住・定住者の受け皿づくりを進めるために空き家活用促進事業を始めました。移住・定住支援として空き家を町が10年間借り上げ、改修して移住者には月額1万5千円で貸し出しています。現在町にある空き家が200件で、その内移住者が決まったのが57戸あります。

また、これから移住される方や移住した方の為に、移住コーディネーターを配置して移住に関する相談アドバイスをしています。移住された方々は町内で働いており、地元の雇用にも貢献しています。

この事業を通じて移住者が移住に関して求める重要な要素は「家・住環境、子育て環境」であることが分かったそうです。その結果、ここ5か年の社会動態は人口が増える結果となりました。

空き家の改修費は、国・県・町の補助金で賄いますが、空き家利用料が月々1万5千円×12か月×10年で180万円となり、実際に町が負担する金額はゼロに

檜原村においても人口減対策は、重要な課題となっており、今回の視察研修における梶原町の事例を参考に、今後も村民や職員の方と共に力を携え、住みやすい檜原村になるよう周辺環境の整備に努めてまいります。

委員長 山口 和彦

※社会動態とは、一定期間における転入・転出に伴う人口の動きのことです。

## 12月議会のお知らせ

(予定)

- 議会運営委員会 11月19日(月)
- 定例会初日 11月26日(月)
- 常任委員会 12月3日(月)
- 12月4日(火)
- 定例会最終日 12月10日(月)

### 「1」意見をいただきました

9月定例会において1件の意見をいただきました。いただいたご意見は真摯に受けとめ、今後の議会運営の参考にさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。

### 編集後記

り、持続的な地域づくりが可能となるとの事でした。

私たち議員は、檜原村議会の議会での活動の外に、議員相互の親睦と研鑽を目的とする「議員会」をつくり様々な活動を行っています。今年度は、議員間での意識共有を目的として、村の重点施策である「エコツーリズム」をテーマとした研修会を9月18日に実施しました。

研修内容は、村職員による「村で考えているエコツーリズム」について研修を行った後、全国でエコツーリズムに関する講演を数多く行っている「辻野啓一氏」を講師として講演会を行いました。

講演の内容は、今ある地域の自然、伝統文化や風習などを「地域の宝」として発掘していくことについてでした。地域の住民自らが地域の魅力に気づき、それを発掘し、観光旅行者に伝えていくことが、新たな観光資源として地域づくりに繋がります。

秋も深まり、日々寒さも増して参りますので、お身体にご自愛いただければと思います。

(清水)  
委員長 浜中 由造  
副委員長 清水 兵庫  
委員 吉川 洋  
山口 和彦